

10. 訪問指導の内容

数学教室 宮 下 英 明

数学教育を担当している立場上、教材研究の吟味ということを訪問指導の内容と定めている。実際、授業における教師の所作、子どもへの応接の仕方、板書の心得といった内容のことは、実習期間中、経験のある教師達から絶えず指導されているわけである。

教材研究の内容検討の場では、“主題の解釈”ということを常々強調している。

算数・数学科の場合、“教材研究”ということに対する実習生の意識は、多くの場合、“どのように教えるのか” (how) のところで止まっている。“何を教えるのか” (what) という形の意識の方は抜けてしまっている。“自分は what を本当に捉えているのか； what を捉え損なっているのではないか”という問題意識は、実習生自身の中からはなかなか起こらない。

what に対する彼らの意識は、強いて言い表せば、“自分は what をとうに卒業している”ということになる。そこで、彼らにおいては、“教材研究”は“自分にとってアタリマエであるところの what を、それが初めての題材になる子どもにどのように教えたらよいかを考えること”になってしまうのである。

しかし現実には、実習生の多くは、主題を捉え損なった授業をしている。彼らは主題の解釈をしないのではなく、“主題の解釈”ということ意識しないで — そしてこのことを意識しないために —、主題の誤まった解釈をしてしまうのである。

このことを、添付の事例について見てみる。主題は“かわりかた”である。しかし、実習生が実際に行なった授業では、主題が“対応関係”に変わってしまっている。“かわりかた”の主題は、《対応の関係を捉え、表現する》ということではない。“かわりかた”の主題は、この場合タテに見ている対応のヨコを見て、《上のヨコと下のヨコの間立つ関係を捉え、表現する》ということになるのである。

検印

4年 / 組 算数 科学習指導略案 6月12日 金曜 2限

指導者

題目 かわりかた調べ

ねらい 2つの数量の対応する値の組をつくり、表を用いてその関係を調べ、□、○で表すことができる。

準備 さいころ (児童用36こ)、表の紙

指導過程

学習事項と活動	時間	指導上の留意点																
1. 本時のめあてをつかむ。 さいころの表の数と裏の数はどうなっているだろう	3																	
2. 各自でころがして調べてみる。 <自分で実験してみよう> <どうなったかな>	10	<ul style="list-style-type: none"> 各自1このさいころを使って実際に調べ、ノートに記録させる。 自分の記録を発表させる。 																
3. 表をつくり、数の変わり方を調べる。 <見やすくするには、どうすればいいだろう> <どんなことがわかるだろう>	15	<ul style="list-style-type: none"> バラバラに書かず、表にまとめれば見やすくなることに気づかせる。 どちらか一方を1から順に並べると変わり方が調べやすいことに気づかせる。 <div style="text-align: center;"> <table border="1" style="display: inline-table;"> <tr> <td>表の数</td> <td>1</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>4</td> <td>5</td> <td>6</td> <td></td> </tr> <tr> <td>裏の数</td> <td>6</td> <td>5</td> <td>4</td> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td></td> </tr> </table> </div> <ul style="list-style-type: none"> 表の数と裏の数の和が7 表の数が1増えると、裏の数は1減る (1, 6), (6, 1)のように表と裏の数字が入りかかった組が対称な位置にある (上表の矢印) 	表の数	1	2	3	4	5	6		裏の数	6	5	4	3	2	1	
表の数	1	2	3	4	5	6												
裏の数	6	5	4	3	2	1												
4. □、○を用いて表す <表の数と裏の数をたすと7を式で表そう> <もっと簡単に表そう> 表の数 → □ で表すと □ + ○ = 7 と表せる 裏の数 → ○	10	<ul style="list-style-type: none"> 言葉の式 (表の数) + (裏の数) = 7 で表す 																
5. 本時のまとめをする。	7	<ul style="list-style-type: none"> □、○はそれぞれの数の代表を表しており、1つの数だけでなく1から6までの数が入ることをおさえる。 一方の数が決まると、他方の数も決まることに気づかせる。 わかったことを各自、ノートにまとめさせる。 																

批評